

プログラム	NEXT 産業創造	必修・選択	選択 必修	単位	—	学期	夏期
科目群	基礎科目	科目名 (英文表記)	価値共創特論 Advanced Studies in Value Co-Creation		教員名	亀井省吾/城裕昭/ 鈴木宏幸	

概要	本講義では、リアルケースを素材として、価値共創、オープンイノベーション、ならびにその発展形としてのイノベーションエコシステムの視点から、新たな価値がいかに創造されるかを学ぶ。具体的には、「問い」を起点とした価値創造、異分野の人材・組織の共創、空間設計とコミュニティ運営、さらに多様な主体が継続的に関わりながら価値創造を生み出す仕組みについて考察する。対象ケースを、単なる共創空間ではなく、多様な主体を接続し新たな価値創造を促進する結節点として捉え、その構造とマネジメントのあり方を検討する。			
目的・狙い	価値経営を、財務成果の管理にとどまらず、多様な主体との共創を通じて持続的価値を創造するマネジメントとして理解することを目的とする。あわせて、ケース分析を通じて、オープンイノベーションにおける「場」の役割、ならびに複数主体が相互作用しながら価値創造を継続的に生み出すイノベーションエコシステムの構造を理解する。さらに、受講生各人が自らの組織や地域において、どのような価値創造の場や共創の仕組みを構想しうるかを考える視点を獲得することを狙いとする。			
前提知識 (履修条件)	経営学、イノベーション論、地域経営、起業論のいずれかに関する基礎的理解があることが望ましい。なお、自ら課題意識を持ち、討議に主体的に参加する姿勢を求める。			
到達目標	上位到達目標			
	価値共創について、ネットワーク、オープンイノベーションの理論的視点を踏まえ、多様な主体が関与する価値創造の構造を分析し、自ら価値創造の場や仕組みを設計・提案できるようになる。			
	最低到達目標			
	対象ケースを通じて、価値共創の特徴、オープンイノベーションにおける外部連携の意義、ならびにイノベーションエコシステムの基礎的な考え方を理解する。			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・オンライン授業	○	ケース講義、理論整理、教員による解説を行う。	
	授業形態	講義(双方向)	○	
		実習・演習(個人)	○	ケース読解、設問への回答、リフレクションを実施する。
		実習・演習(グループ)	○	グループ討議を通じて、価値創造の場の設計案を検討する。
その他	-	必要に応じてゲスト講師を招聘する場合がある。		
授業外の学習	配付するケース本文および関連資料を読み、設問に対する自分なりの考えを整理しておくこと。講義後は、討議内容を踏まえて、自らの組織や地域に応用可能な価値創造の仕組みについて振り返りを行う。また、必要に応じてネットワーク理論やオープンイノベーションに関する文献・資料を参照し、理解を深める。			
授業の内容	本講義では、リアルケースを中心に、価値創造を支える場の設計、コミュニティ形成、プログラム運営、多様な主体の連携、ならびにイノベーション創出の構造について学ぶ。講義では、理論の解説に加え、ケースディスカッション、グループワーク、全体討議を組み合わせて実施する。ケースに示された「問い」を起点とする価値創造の考え方を踏まえつつ、受講生自身が価値創造の場やエコシステムのあり方を構想する。			
授業の計画	回数	内容		
	第1回	イントロダクション・理論インプット講義・ケース概要		
	第2回	ケース講義・質疑応答		
	第3回	グループ討議		
	第4回	プレゼンテーション・質疑応答		
	第5回	解題講義・振り返り		
教科書・教材	ケース教材(配布)			
参考文献	ヘンリー・チェスブロウ『オープンイノベーション—組織を越えたネットワークが成長を加速する—』英知出版、2008。亀井省吾・鈴木宏幸・城裕昭「都市型共創拠点におけるスタートアップ・エコシステムの構造分析-SHIBUYA QWSにみるエコシステム・ポジション、共創文化、持続可能性-」情報社会学会誌、Vol20, No.1, 2025。			
成績評価	成果発表(60%)、討議参加(40%) 3回以上の欠席は認めない。			